

楽音

佛歴二五六五 西歴二〇二二
令和四年一月号

発行 楽音寺 内藤睦雄

電話 090-3140-3931

FAX 0553-47-3495

寺庭 080-2065-7939



花を咲かせた「カネのナルキ」
危機感を感じて花を咲かせたかと思うと涙が出
ますが、花を以って私たちにエールを送ってくれ
ていると思えば力も湧きます

歳が再び改まりました。皆さんそれぞれの
思い、夫々の身心の置処で、この移り行く時
を見つめていらっしやることと存じます。

昨年暮れには多くの方々にご心配をして
いただき、たくさんの物を失った大きな痛手
を癒すことができました。ありがとうございます
ました。お一人お一人のもとに伺って手を握
って感謝を伝えたいところですがそれもか
ないません。この歳になって「出世払い」も
あり得ない、私の残りの人生を見て頂くしか
ないと感じています。どうか今まで同様、楽
音寺、家族共々よろしくお願い致します。

この独り言のような寺報「楽音寺」昨年十一月まで、やや惰性的な発行で、無理やり送り付け目に触れて頂きました。私が住職就任以来約二十年間、号数にして二百号中ほどを数えたと思いますが、つくづく号数には大きな意味はないなと思い、新たに正月一月号として再び送らせて頂きます。

私にとってこの寺報は、皆さんの目から見ると不十分だし迷惑だし、きつと費用もかかっているだろうし、と思われるところですが、私にとってみれば「ライフワーク」ほどカッコいいものではありませんが、生活のリズム、頭の中の整理、様々な指針、継続しようという思い等など、大きなウエイトを占めています。読者にとってためになることを、なんて大そうなことは考えていませんが、気楽に再びのお付き合いを宜しくお願い致します。

皆さんのおかげ様をお話しするときりがありませんが、敢えてお一人お一人への感謝を思っています。例えば私のパソコン関係の面倒を長年見て下さった方は、直後にプリンター・インク・用紙を添えてパソコンを持ってきて下さったり、懇意にしていた農機具屋さんには早速修理や中古を準備して頂いたり。ご存じの方も多いと思いますが、火災当日の夜から一か月以上二階建ての家を私ども家族のために提供していただいた檀家さん。ご自分たちは息子さん家族の家に移り、さらに何かと細やかに面倒を見て頂いたこと、ほかにもたくさん沢山、すべて忘れてはならないことです。

現在は車で数分のところにある県営の団地に住まわせて頂き、ここをベースに更地工事、新築工事を見守る事と致します。日中住職はなるべく境内に居るようにいたしますので、通りかかる折には声をかけてください。どうかご安心ください。

臨濟寺専門道場へ出立

折に触れて断片的に道場時代のことをお話して来ましたが、今、私が禅宗僧侶を名乗っていられるのは道場のおかげと思ひ、重複もありますがシリーズにして経験談をお読みいただきます。

三十五歳を迎える年の三月一日、東京生活を引き払って山梨に移りました。まだ私はパーマをかけた髪も長く、上の娘は六歳、八月出産予定の妻と小型トラック一台だけの引越でした。

早々に中尾の寶樹院先々住職にご挨拶、弟子として、また僧侶としての第一歩「得度式」という儀式をして頂きました。着慣れない着物と下駄という格好です。初対面のこの和尚は一つの笑顔も見せず、多くのことを時間をかけてお話し下さったのですが、

正直ほとんど覚えていません。記憶にある事は「僧

名」を付けるがどんな名がいいか、とおっしゃられた。私は今の自分には不似合いなほどに大そうな名にしてほしいと申したと思います。それなら、と白い和紙を折って、わざわざ墨をすって、あれこれ筆を選んで「大心」と書いてくださいました。これがあんたの戒名だとか、「大なる哉心」という言葉からきていることとか、どんな心か一生かけて見つけろ、みたいなことを言われ、ああ「たいそうな心か」と心の中で呟いて、お寺を後にしました。

行き送ってくれた父も帰りはいなく、塩田まで歩いてきて、途中猛烈な尿意を催しました。着物の恰好で道端ですることでもできず、大人になって初めて着物を汚して帰ってきました。妻の悲しそうな顔が思い出されます。私の始めの一步でした。